

平成 27 年 8 月 15 日

學校法人東京国際学園
東京国際福祉専門学校
理事長・校長 武田 哲一 殿

學校法人東京国際学園
東京国際福祉専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 長澤 正雄

平成 27 年度 学校関係者評価報告書

学校法人東京国際学園 東京国際福祉専門学校 学校関係者評価委員会は、「平成 26 年度東京国際福祉専門学校 自己点検・自己評価報告書」に基づき、学校関係者評価を実施しましたので、ここに報告いたします。

学校関係者評価委員会は、業界団体・職能団体、企業・関係施設の役職員、卒業生、地域福祉団体の代表 6 名をもって平成 27 年 6 月 24 日に発足、以後、2 回の委員会を開催し、理事者・教職員の出席を得て、学校運営、教育活動等について提出資料に基づき評価を行いました。

その結果は、下記のとおりであります。少子化、大学全入時代の今日、専門学校の入学志望者減少、学校経営の厳しい中であって、職業実践教育の強化、積極的な社会人教育の実施など、理事者・教職員の学校運営、教育活動の努力を評価します。

少子化に加え、若者の福祉業界離れが進んでいる状況において、介護福祉士養成施設あるいは保育士養成施設としての本校は、早急な対応が求められています。委員会では、子育て支援学科に対しては、保育士資格と幼稚園教諭免許の同時取得可能な方途の検討、介護福祉科に対しては、地域の介護職への再教育講座の開講など、具体的な取り組みを示しました。

本委員会が指摘した各事項について検討され、改善・強化を図られるようお願いいたします。

記

1. 学校関係者評価委員会開催記録

回	日 時	内 容
1	平成 27 年 6 月 24 日 午後 6 時～9 時	委員長互選、委員会設置の趣旨説明、学校の概要説明、自己点検・自己評価報告書の説明、質疑
2	平成 27 年 7 月 8 日 午後 6 時～9 時	自己点検・自己評価報告書の審議、意見、要望 委員長報告の取りまとめについて

2. 第1回学校関係者評価委員会議事次第

進行	議 事
木村	1. 開会 福祉担当理事 木村 雅之 2. 校長挨拶 校長 武田 哲一 3. 学校関係者評価委員会委員紹介 4. 学校関係教職員紹介 5. 委員長互選 長澤正雄委員を委員長に選出 6. 委員長挨拶 長澤正雄委員長
委員長	7. 学校評価・学校関係者評価について 宗 國男 8. 学校法人・福祉校の概要 (1)全体 福祉担当理事 木村 雅之 (2)介護福祉科 学科主任 齋藤 千秋 (3)子育て支援学科 学科主任 松井 友子 9. 質疑応答・意見・要望・提案等 10. 次回の委員会について 11. 閉会

* 議事録別途作成済み

3. 第2回学校関係者評価委員会議事次第

進行	議 事
木村	1. 開会 福祉担当理事 木村 雅之 2. 校長挨拶 校長 武田 哲一 3. 第2回配布資料の説明 4. 質疑応答・意見・要望・提案等 5. 今後の委員会活動について 6. 閉会

* 議事録別途作成済み

4. 学校関係者評価委員会委員

No.	氏名	選出区分	備考
1	望月 太敦	業界団体・職能団体	東京都介護福祉士会理事 社会福祉法人三育ライフ シャローム本天沼 ホーム長管理者
2	徳堂 泰作	地域福祉団体	社会福祉法人東京ムツミ会ファロ 施設長
3	長澤 正雄	企業・関係施設の 役職員	社会福祉法人新川中原保育会 みたかつくし んぼ保育園 理事長
4	大伴美砂子	企業・関係施設の 役職員	社会福祉法人わらしこの会わらしこ第2保育園 園長
5	渡邊 正二郎	卒業生	平成 24 年3月 介護福祉科卒業
6	俣野 朋子	卒業生	平成 27 年3月 子育て支援学科卒業

5. 学校関係者評価委員会 評価及び指摘事項

(1) 教育理念・目的・育成人材像

- 学校は、社会人の再教育の場でもある。介護現場で働く職員のための実務講座を開いてもらいたい。
- 「チームケアを実践できる人材育成」は良い視点だ。
- 保護者対応のため保育ソーシャルワークの重要性を学んでほしい。
- 社会人としてあるべき教育を行っていることは良いと思う。
- 将来、外国人の学生が入学してくることが予想される。国際的視野を持った人材育成は的を射ている。
- 本校の卒業生は、保育現場で即戦力になっている。子育て経験、社会人経験を生かした教育の成果だと評価する。
- 育成人材像として、福祉の技術、福祉の知識を持った人材だけでなく、福祉の心も兼ね備えた福祉専門職を目標に置いていることは評価できる。

(2) 学校運営

- 新宿にあるという地の利を最大限学校経営戦略に生かすべきだ。新宿で学べるという若者の意識は無視できない。

- 保育の分野では、今後、保育士資格と幼稚園教諭免許の取得が求められる。本校も早急に対応を検討してもらいたい。
- 求職者の再就職支援は、学校経営の観点からも無視できない。上手に生かして経営の柱の一つにすべきだ。

(3) 教育活動

- パソコンのスキルは保育の現場で必要だ。書類作成事務などで活用されている。在学中に十分学んでほしい。
- 正規雇用・非正規雇用の違い、職業意識の裏づけ等授業の中で徹底させてほしい。
- 保育の現場で活躍している若い世代の声を、もっと授業の中で聞くことのできる機会があればと思う。
- 「学生と教員が率直に話し合える学校」という卒業生の評価もある。小規模校のメリットを生かして「学生と教員間の風通しの良い学校」を、さらに目指してもらいたい。
- 子どもを見るだけでなく、保護者支援の大切さを学んだ。現場ではその重要性を痛感しているので、さらに徹底してもらいたい。
- 介護の現場でも家族とのやり取りは多い。認知症対応において利用者主体が基本だが、家族がいるとそうはならない場合がある。家族支援の必要性を感じている。
- 将来、国家試験不合格者が出現した場合、支援体制を構築してほしい。
- 大学にはない専門学校の特徴として、柔軟性のある教育、個々の学生に応じた密度の濃い対応があると思う。本校は、学生と教員の対話を大切にしているという印象がある。

(4) 学修成果

- 卒業生の中には施設長などで活躍している人も多い。彼らを招き在校生の話をしてもらえば、授業理解も深まると思う。
- 卒業生の情報収集は、学校だけでは十分できないと思う。同窓会の設置やメールサービスの導入など検討してもらいたい。
- 卒業生の再教育(スキルアップ)の機会を兼ねた卒業生の集いがあれば、卒業生の社会的評価に関する情報収集もできると思う。
- キャリアアップを支援する制度があれば良い。
- 学校は、学生と企業との橋渡しの役割。上手にバトンタッチさせてほしい。

(5) 学生支援

- 福祉施設の職員が辞める原因はストレスが大きい。燃え尽き症候群になる。学生が在学中に対処法を学んでおけば良いと思う。
- 学生の相談に対して教員が親身になって応じていることは良いことだ。
- メンタルな悩みについての対応を強化してほしい。学校、企業、関係施設が連携できるシ

STEMがあれば良い。

○「学生支援」の項に、就職後の定着支援も入れてもらいたい。

(6) 教育環境

○1階ロビーを学生のために活用すべきだ。昼休み時間に開放して食事をしたり、交流の場にもなる。

○本館に学生が使用できるパソコンを備えるべきだ。パソコン技術のスキルアップやレポート修正に便利になる。

○教職員用のパソコンは、できるだけ最新の機械にして、効率化を図ることは大切だ。

○校舎の防災対策を万全にすべきだ。

○実習先は就職を見据えた決定が大事だと考える。

(7) 学生募集等

○学校説明会の内容をさらに充実させるべきだ。学校説明会に参加して、入学を決める人は大勢いると思う。

○介護業界は若い力を必要としている。高校生に向けて介護の良さ、大切さをもっとアピールすべきだと思う。

○社会人向けの再就職支援制度は、あまり浸透していない。再就職支援により人生が開ける場合がある。より効率的なPRを行うべきだ。

(8) 財務

○一部の大学では、あらゆる努力をして、入学志望者減少を乗り切っている。本校は、新宿1丁目という地の利もある。保育士不足という状況もある。本校の良さを上手にPRし、全学挙げて、高校新卒入学者を増やすため最大限の努力をしてほしい。

(9) 法令等遵守

○マイナンバー制度が始まると今まで以上に個人情報保護を徹底する必要があると思う。

○法令等の遵守がされていることは良いことだ。本校の学生・実習生は、個人情報保護に関して良く教育されている。

○個人情報保護と情報開示請求への対応、難しい問題だが遺漏のないよう対処してもらいたい。

(10) 社会貢献

○地の利を生かして、本校の施設の中に高齢者の拠りどころとなる場を作ってはどうか。学生にとっても高齢者と接する良い機会となる。

○本校は、ボランティア活動が積極的になされている。

- 地域で開催される講習会等へ、学校から福祉と教育の専門職である教員を講師として派遣するという試みは良いことだと思う。今後は、講習会等でなくても、施設で行われる学習会等にも教員を講師として派遣してくれればありがたい。
- 学校の施設設備を地域団体に開放することは大事だ。学校は地域の介護力の向上に貢献してほしい。
- 現職の介護職員対象の講座を実施してもらいたい。認知症対応、自己覚知に関することなど。

(11) 総括

少子化、大学全入時代の今日、専門学校の入学者減少、あるいは、若者の職業意識の多様化等により、専門学校の経営は厳しい状況に置かれている。

文部科学省は、専門学校が危機を乗り越え、さらに、高等教育機関として職業実践教育に活路を見出して学校教育の中で存在意義を示すための関係法令の改正を行ってきた。その一つが、学校評価実施の義務化である。

学校評価は、学校が自らの現状を点検し、課題を発見して、教育の質保証・向上を図ること。また、自身では気づきにくい課題について、学校関係者から指摘提案を受け、自己点検・自己評価を補正することによって、学校評価の実を上げることにも含まれている。

本委員会は、専門学校をめぐる動向を踏まえ、学校関係者評価の意義を念頭に置きつつ、次の視点から学校関係者評価を実施した。

- ① 専門学校に求められている実践的、専門的な職業教育を、関係業界等と連携の下に行っているか。
- ② 関係業界等と連携し、実習・実技・演習を重視した教育課程を編成しているか。
- ③ 教員に対し、実務上の知識、技術及び技能や指導力の向上を目指した効果的な研修を行っているか。
- ④ 入学志願者が適切な選択をするための十分な学校情報を公開しているか。
- ⑤ 理事者のリーダーシップの下、全教職員が教育理念・目標を共有しているか。
- ⑥ 学校運営安定のため、入学者の確保に努力しているか。
- ⑦ 学生(卒業生)が安心して働ける職場の開拓に、関係業界等と連携の下に行っているか。
- ⑧ 施設設備の充実、防災防犯対策の確立等教育環境の整備に努めているか。

【総括評価】

本校の学校運営、教育活動は、概ね、適正に実施されていると評価する。但し、改善点を含め、次の点について総括的に指摘しておきたい。

- ① 現在は、経営上問題は無い。しかし、今後、入学者数の回復が見込めない場合は、財政状

- 況の悪化は免れがたい。整った教育施設設備、実務経験豊富な教員、新宿1丁目に所在するという地の利などを最大限に活用して、入学者の増加対策に取り組んでもらいたい。
- ②教育活動は、学生の意向、関係業界等の要望を取り入れ、職業実践教育、社会人教育を行っていることは評価するが、なお一層、社会のニーズに沿った教育を行ってほしい。
 - ③姉妹校の東京外語専門学校と有機的な連携協力をして、入学者獲得に新機軸を出してもらいたい。
 - ④国の社会人再教育制度(現求職者支援制度)に他校に先駆け参入し、社会人に再就職の機会を提供していることに敬意を表すると共に、時代を先取りした経営感覚を評価したい。今後とも、あらゆる方面にアンテナを張り巡らし、学校経営に資する機会を獲得してほしい。
 - ⑤どんなに優れた教育活動を行っていても、入学志願者、関係業界等にその内容が知られていなければ、入学者の増加、就職活動に利することにはならない。学校のホームページ等には、本校の良さを積極的に掲載すべきだ。また、教職員は全員広報マンという気概で、あらゆる場面で学校の良さをPRしてほしい。
 - ⑥卒業生は、学校の良き理解者であり、情報提供者、広報マンでもある。学校と卒業生、あるいは、卒業生同士の連絡調整のできる組織の構築を検討してほしい。
 - ⑦介護福祉士資格取得に関して、本校の学生(卒業生)も近い将来、国家試験受験が義務付けられる。現在、本校は、その時に備えて、2年生のカリキュラムを編成していることは評価するが、さらに対策を強化して、全員合格を目指して万全を期してもらいたい。また、不合格者が出た場合の対策も準備してほしい。
 - ⑧本校卒業生の声を聴くと、「本校は、学生と教員の距離が近い。個々の学生に応じた、指導、相談対応をしてくれる」という意見が多い。今後とも、本校らしく、学生に対し親身になって教育、相談助言等を行ってもらいたい。
 - ⑨防災対策は十分なされているが、防犯に対する具体的な対策を構築してもらいたい。